

磐田・袋井・掛川インターナショナルフェア 2023

日時：令和5年1月27日（土）～28日（日）

場所：ららぽーと磐田

趣旨：多様性豊かな調和のとれた多文化共生の地域づくりの理念に基づき、より広く一般市民に多文化共生の意識啓発を行うため、中東遠地域のランドマーク的な存在である、ららぽーと磐田で開催

【今年度の特徴】

- ・掛川、袋井、磐田の市及び国際交流協会に加えて、菊川市、森町の国際交流協会を招き、これまでよりも広域に連携体制を広げて合同開催を実施
- ・新型コロナウイルス感染症拡大に伴い2年前から中止していた出店（飲食・手芸品等）やステージイベント（ダンス・スピーチ）を、感染症予防へ配慮することで、開催することができた。
※ステージイベントでは、相川アンジェラ委員も“セメンチニャ”という演劇団体として参加され、劇を通じて移民の歴史や苦労を伝えてくださりました。
- ・ステージイベントでは、静岡文化芸術大学の佐伯康考様にモデレーターを依頼し、3市長によるシンポジウムを企画。
各市1名ずつ外国で生まれ育った市民を招き、日本の暮らしで困ったことなどのエピソードを基に、どんな支援が必要か、これから自分には何ができるかを議論した。

<会場の様子>



シンポジウムの議論内容について

シンポジウムの登壇者及び、具体的な議論内容について、以下のとおりご紹介します。

1 登壇者

- (1) モデレーター 静岡文化芸術大学 佐伯 康考 様
- (2) 日本人代表 【磐田】副市長 高橋 由利子 様
【袋井】市長 大場 規之 様
【掛川】市長 久保田 崇 様
- (3) 外国人代表 【磐田】山田 法子 様 (中国出身)
【袋井】ドアン・ソン・トゥン 様 (ベトナム出身)
【掛川】モレイラ・紺野・レイジアニ 様 (ブラジル出身)

2 内容

- ・日本語はどうやって話せるようになったか？
⇒来日直後は日本語が話せず、日本語学校に通った。
日本語がある程度話せるようになってから妊娠・出産をしたため、病院で困ることはほとんどなかった。(山田様)
- ・母国出身者から成るコミュニティとの交流はあるか？
⇒サッカー大会を実施するなど、交流がある。(ドアン様)
- ・外国にルーツがある子どもに対する支援について、どのような支援が必要か？
⇒教育に関する支援が課題であると考えます。(モレイラ様)

3 聴講者コメント

- ・自分の文化や言語を当たり前と思わない。
誰もが他国の文化や言語を尊重し理解することが必要である。
- ・身近にいる外国の方とお話することで、少しでも不安が減ったり、助けになるとわかった。
地域の外国人の方と交流する場があったらいいなと思った。
- ・日本語がわからないことは生活において不便であり、不安も大きいはず。
日本語教育のボランティアとして支援していきたいと思った。
- ・自分も相手を知ろうとする気持ちを持って簡単な日本語を話す！！
- ・SOMOS TODOS AMIGOS! ♡ (みんな仲間♡)
- ・子どもの方が日本語を習得する可能性が高いです。
その中でも特に支援が必要なのは、年齢が高い子どもたちだと思います。
しかし、単に説明をするだけでは解決にはつながらず、初期から寄り添い、それぞれの違いや能力を観察してくれる教員がいてくれることが大切です。

磐田市日本語教室について（後期）

磐田市日本語教室事業の後期（11月～3月）の経過について、現時点での結果及び取り組みを、以下のとおり報告します。

1 実績について（受講者数・修了証発行者数など）

(1) 参加人数について

	5月～10月	11月～3月	増減
申込人数	187人	208人	+21人
1回以上参加した人数	141人	140人	▲1人
うち、4回以上参加した人数	72人	57人	▲15人
継続受講率(4回以上参加者)	51%	41%	▲10%

※後期は2月14日時点の数字であるため、前期を下回っている。

(2) 日本語レベル分布（受講前の自己評価によるレベル判定結果）

	レベル5	レベル4	レベル3	レベル2	レベル1
5月～10月	13人(13%)	40人(38%)	33人(32%)	14人(13%)	4人(4%)
11月～3月	16人(11%)	35人(23%)	50人(33%)	35人(23%)	15人(10%)
増減	+3人(-2%)	-5人(-15%)	+17人(+1%)	+21人(+10%)	+11人(+6%)

※わからないと回答した方もおり、今回は集計から除いている。

※レベル5が支援者レベル、レベル1が入門・準備レベルとなっている。

※受講前のレベル評価は、「Can - do statements」という方法で実施しており、受講者の自己評価によりレベルを判定している。

2 前期課題に対する改善案の実施結果について

(1) ボランティアに、地域の人の参加を増やす。

⇒改善案：ボランティアの体験会を設け、参加しやすい環境をつくる。

⇒結果：“にほんごボランティア体験会”を新規に企画し、学びの庭や、交流センターだよりで地域住民に対して情報発信。全6回で合計16名が参加、10名がボランティア登録、6名が初級クラスに継続的に参加してくれるようになった。

補足：静岡文化芸術大学の大学生を中心に若い世代のボランティアが増えた。

(2) レベル判定の検証と改善

⇒改善案：前期の検証をもとに修正を加える。

⇒結果：前期から後期の期間が短く、見直しを行えなかった。

後期の結果も踏まえ、次年度に向け修正を図る。

(3) 文法や文字への学習希望への対応

⇒改善案：後期受講者のニーズを確認しながら、対応を検討する。

⇒結果：後期も一定数のニーズが確認された。

支援者スキルアップ研修で文字学習の取り入れ方を学んだ。

教室コーディネーター会議で、文字を扱うテーマを取り入れる、ふりかえりシートの記載時に指導をするなどの対応方針を示した。

3 人材育成実施状況について

(1) 日本語支援者スキルアップ研修（全 4 回）-参考資料 1 参照-

① 研修内容

やさしい日本語、日本語教室の進行方法、バディ活動、生活の漢字、について

② 実施状況

- 第 1 回 10 月 29 日（土） 18 名受講
- 第 2 回 11 月 26 日（土） 8 名受講
- 第 3 回 2 月 4 日（土） 18 名受講予定（Z o o m）
- 第 4 回 2 月 18 日（土） 8 名受講予定

(2) 進行役養成講座（全 5 回）-参考資料 2 参照-

① 研修内容

現支援者を対象に、現進行役が講師となり、進行役について指導

② 実施状況

竜洋教室の支援者 1 名が参加

第 4 回まで終了しており、第 5 回に 3 月の教室で進行役を実践予定

4 次年度教室について

募集期間：前期 4 月～5 月、後期 10 月～11 月を予定

実施期間：前期 5 月～10 月、後期 11 月～3 月を予定

ポイント：①企業向け日本語教室 P R 動画を利用した企業に対する情報発信の強化

②日本人支援者募集用 P R 動画を利用した地域住民に対する情報発信の強化

5 多文化共生事業 P R 動画について

(1) 企業向け日本語教室 P R 動画

・株式会社松下工業にご協力いただき、企業向けの日本語教室 P R 動画を作成

【内容】企業にとってのメリット、外国人従業員にとってのメリットが伝わる。

【目的】企業の日本語教育意識の啓発、認知度向上

(2) 日本人支援者募集用 P R 動画

・日本語教室ボランティアの方にご協力いただき、地域住民向けの日本語教室 P R 動画を作成

【内容】日本語教室ボランティアのやりがいや、楽しさなどの魅力が伝わる。

【目的】地域住民に対する認知度向上、ボランティア参加者数増加

(3) 外国人市民向け多文化共生事業 P R 動画

・外国人情報窓口、日本語教室、N I J I など磐田市の多文化共生施策の P R 動画を作成

【内容】外国人市民に対する磐田市の生活支援が伝わる。

【目的】現在磐田に住んでいる、市外に住んでいる、これから日本へ移住予定の外国人の方に、磐田の取組みを周知することで、外国人に選ばれる磐田市となる。

(1)、(2)、(3)の動画は、令和 5 年 4 月を目安に Facebook、YouTube で発信予定

日本語支援者 スキルアップ研修 2022

日本語初心者とのコミュニケーションの仕方、
対話交流活動のスキルやアイデアを一緒に考え、学びませんか。

回	日 時 ・ 会 場	テ ー マ	講 師
1	10月29日(土) 10:00-11:30 ワークピア磐田 第2会議室	やさしい日本語ではなそう！ 今日から私もバディさん ~JICAによる多文化共生の取り組み紹介~	磐田国際交流協会 教室コーディネーター 村上 ナオキ 氏 (独)国際協力機構 JICA 浜松デスク 国際協力推進員 荒石 真生 氏
2	11月26日(土) 10:00-11:30 ワークピア磐田 第2会議室	進行方法を工夫しよう	磐田国際交流協会
3	2月4日(土) 10:00-11:30 オンライン (Zoom)	はじめよう！ 『生活の漢字』学習支援	『生活の漢字』 をかんがえる会 新庄 あいみ 氏
4	2月18日(土) 10:00-11:30 ワークピア磐田	情報交換会 ◆他教室の支援者と情報交換しましょう	磐田国際交流協会

対 象：日本語教室の支援者、もしくはこれから支援を始めようとしている方

定 員：各回 20 人、単発受講可 受 講 料：無料

申 込 み：電話または Eメールで①氏名 ②所属 ③連絡先(電話、メール) ④参加する回
をお知らせください。締切りは各回 1 週間前まで

注意事項：第 3 回にお申し込みの方は Zoom アプリをインストールしたパソコン、スマホ、タブレ
ット等とネット環境をご用意ください。事前に当日のアクセス情報をお知らせします。

一般社団法人磐田国際交流協会(磐田市見付 2989 番地 3 ワークピア磐田 1 階)

【TEL】0538-37-4988 【E-mail】ice@iwataice.jp 【HP】http://www.iwataice.jp/

一般社団法人磐田国際交流協会
2022年度 にほんご教室進行役養成講座 企画書

事業名：にほんご教室進行役養成講座 2022

目的：ボランティアとしてすでに教室活動を経験している人の中から対話活動のプログラムを作成して進行する人材を養成し、教室活動の中心スタッフを増やす。

日時：2022年11月～2022年12月（実践は教室の都合に合わせて12～3月）

全5回 曜日、時間は下記参照

会場：ワークピア磐田 他

対象：教室コーディネーターからの推薦者（日本語教室でボランティアの経験がある方）

定員：5～6名

受講料：無料

回	日程	テーマ	会場	内容	講師
1	～12月7日(水)	地域の多文化共生	オンデマンド (2022 日本語ボランティア養成講座の動画)	在住外国人の状況を知り、地域の多文化共生について考える ・入管法の変遷、在留資格	静岡県立大学 国際関係学部教授 高畑幸氏
2	～12月7日(水)	地域日本語教室の在り方と日本語ボランティアの役割	オンデマンド (2022 日本語ボランティア養成講座の動画)	多文化共生をめざす地域日本語教室のあり方とボランティアの役割を考える 国の動向、愛知県・静岡県などの情報	東海日本語ネットワーク 副代表 米勢治子氏
3	～12月7日(水)	地域の多文化共生	オンデマンド (2021 日本語ボランティア養成講座の動画)	対話活動の計画をたてよう ・テーマ選び ・目標の立て方 ・目標達成するための活動の作り方 ・進行役や補助者の活動のポイントについて	磐田市日本語教室 コーディネーター 田中琢問氏
4	12月11日(日) 9:30-12:00	オリエンテーション 活動計画を立てる	ワークピア磐田 2階相談室	磐田市日本語教育事業の全体像 活動計画を立て、準備をする	磐田国際交流協会
5	各教室の日程 12月-2月頃	実践 ふりかえり	各教室	進行役を実践 実践後、他の支援者も交えてふりかえり	磐田国際交流協会

課題

ターゲット

現状

出来る事

資料 3-1

日本語教室ボランティアを増やすには？

地域

- 多くの住民がボランティアを知らない。
- 地域の日本人は外国人に親しみがなく、無関係だと考えている。
- 日本語教室ボランティアを体験すると、興味を持ってくれる人がいる。

- 地域イベントを企画し、交流の場を創出することで、地域の日本人ボランティア参加を促進する。
- 呼称を「パディ」などにすることで、身近で取り組みやすい仕組みをつくる。
- 参加者にSNS等で日本語教室の様子を発信してもらう。
- 日本語教室が楽しい場であることをアピールする。

企業

- 日本語教室ボランティアの存在を知らない。
- 何をやる教室かイメージが湧かない。
- 企業が従業員に日本語教室ボランティアに参加するよう強制はできない。

- 日本語教室情報を企業にシェアする。
- 外国人受入企業に対する認定制度を設けて、認定項目に日本語教室ボランティアへの積極的な参加を掲げることで、企業がメリットを感じられるようにする。
- 日本語教室で、外国人従業員の日本語学習を補助し、企業は教室の運営を補助するという支え合いの意識を広めていく。

行政

- 日本語教室ボランティア参加は努力義務である。
- 日本語教室ボランティアを知らない幼稚園・学校職員が多くいる。
- 日本語教室でどんなことをするのかわからない。

- 市HPにボランティア募集ページを作成する。
- 大学生、高校生など、外国人に対するハードルが低い世代から、ロールモデルとなるボランティアリーダーを選出し、メディアに取り上げることで、若い世代の関心を向ける。
- 中学生ボランティアで取り組める内容とし、活動の選択肢の一つとする。

課題

ターゲット

現状

出来る事

資料 3-2

やさしい日本語の普及のためには？

地域

- やさしい日本語を知らない人が多い。
- やさしい日本語を使っているという意識はないが、外国人の配慮をしている。

- 外国人と日本人の交流の機会を作り、会話をする場を設ける。
- まずは、やさしい日本語を広く周知する。文法や言語としてではなく、あくまで心構えであり、難しいものではないという認識を持ってもらう。

企業

- やさしい日本語を自然に使っている。
- やさしい日本語がどんなものか知らない。
- 漢字にルビを振っている。

- 入社1~3年目の外国人職員用に、やさしい日本語で作成したマニュアルを用意する。
- TikTokやFacebookなどのSNSで、言換例の動画を発信する。
- SNSを活用して、やさしい日本語を広く認知してもらう。

行政

- やさしい日本語について、行政職員も知らない人がいる。
- やさしい日本語について教員の認知度は高い。
- 職員間で、やさしい日本語への言換えを取り組んでいる。

- 小学生は、普段のコミュニケーションから、やさしい日本語を無意識的に使っている。
- 市役所内で、やさしい日本語を普及し、公文書のやさしい日本語化を全庁的に行う。

【令和 4 年度の取組成果】

取組									
拡充	<p>市事業として「初期日本語教室」開校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市独自の日本語能力判定表を作成 ⇒ 生活者レベルに重点「話す・聞く」 ・修了証と日本語能力を市が証明 ⇒ 継続受講者の増、習得に繋がる ・外国人を雇用する企業と連携 ⇒ 従業員のレベルアップ、社内で相互理解を促進 <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続及び新規参加者が増え、会場によっては待機者が 25 人と増加傾向。 ・新たな日本語支援者の募集と掘起こし、および既存支援者のスキルアップ。 								
新規	<p>日本語教室の効果検証&企業向けPR動画を作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人受講者、企業経営者の声を追跡調査 ・職員の企業訪問時にヒアリング調査（外国人雇用の実態、社内の日本語教室の実施有無、市日本語教室の利用希望など） 								
拡充	<p>情報発信の多言語化</p> <p>外国人情報窓口における情報発信を拡充 R4.10月～</p> <table border="1"> <tr> <td>言語</td> <td>ポルトガル語に「タガログ語」「ベトナム語」「やさしい日本語」追加</td> </tr> <tr> <td>動画</td> <td>ポルトガル語に「タガログ語」「ベトナム語」追加</td> </tr> <tr> <td>媒体</td> <td>Facebookに「YouTube」を追加</td> </tr> <tr> <td>タブレット</td> <td>14か国語に対応するタブレットを主要施設（本庁2、各支所4、iプラザ4）及び公立幼稚園・保育園等に配置</td> </tr> </table>	言語	ポルトガル語に「タガログ語」「ベトナム語」「やさしい日本語」追加	動画	ポルトガル語に「タガログ語」「ベトナム語」追加	媒体	Facebookに「YouTube」を追加	タブレット	14か国語に対応するタブレットを主要施設（本庁2、各支所4、iプラザ4）及び公立幼稚園・保育園等に配置
言語	ポルトガル語に「タガログ語」「ベトナム語」「やさしい日本語」追加								
動画	ポルトガル語に「タガログ語」「ベトナム語」追加								
媒体	Facebookに「YouTube」を追加								
タブレット	14か国語に対応するタブレットを主要施設（本庁2、各支所4、iプラザ4）及び公立幼稚園・保育園等に配置								
新規	<p>多文化交流サッカー大会 ～がーびー磐田市長杯～</p> <p>[目的]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異国籍の外国人同士や日本人と「心の交流」をスポーツを通じて促進する。 ・障害者と健常者が同じフィールドでスポーツする機会を創出。相互理解を促進。 <p>[取組]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国籍問わず外国人チームや大学留学生・外国人学校等からチームを募る。 <p>開催日：令和5年3月11日（土）開催 場 所：竜洋スポーツ公園サッカー場</p>								
新規	<p>名古屋入国管理局と連携強化</p> <p>◇市の「多文化共生推進協議会」及び「5市町広域連携会議」へ名古屋入管職員が参加。相互の情報共有の促進を図る。</p>								
拡充	<p>5市町による多文化共生広域連携促進会議の充実（磐田・袋井・掛川・森・菊川）</p> <p>◇多文化共生施策を担う市及び国際交流協会職員等を対象とした合同勉強会 開催日時：令和5年2月1日（水）13時30分～16時30分 [内容] 名古屋出入国在留管理局より 「在留資格と出入国の実情や制度の課題について」 静岡文化芸術大学 佐伯准教授「多文化共生における今後の傾向と課題について」</p>								
その他	<p>市内に夜間中学の誘致</p> <p>開校式 令和5年4月7日（金）</p>								
新規	<p>「笑顔」で日本人と外国人の子供を繋ぐプロジェクト</p> <p>◇一般社団法人One Smile Foundation、学び舎フレンドシップとの官民連携により、豊田東幼稚園と外国人保育所チアホーザに笑顔を検知する専用端末を設置し、挨拶の代わりに笑顔の数を交換する。</p>								

【令和 5 年度の取組計画（案）】

取組	
新規	<p>「やさしい日本語」手引き作成・普及</p> <p>[目的] 「やさしい日本語」は外国人だけでなく、高齢者・子供・若者・障害者にも配慮した「言葉のバリアフリー」。相手に寄り添った言い方・表現ができる社会を目指す。</p> <p>[取組] ・企業・地域・職員に発信する。R 4 作成・R 5 印刷製本・配布・普及 ・日本人住民と相互理解を促すため、外国人から見た日本を伝える場をつくる。</p>
新規	<p>プロモーション動画の配信</p> <p>・海外向け、外国人を雇用する企業向け、地域向けに日本語教室及び多文化の取組を配信 ・海外にいる外国人、日本にいる外国人から選ばれる「働きやすい・暮らしやすい」地域を目指す。</p>
拡充	<p>生活に役立つ動画を作成・配信</p> <p>・アニメーションを加えた動画（税・災害避難所・生活ルールなど）</p>
新規	<p>外国人アンバサダーの選任</p> <p>[現状・課題] ・市が外国人独自のコミュニティにアプローチできていない。</p> <p>[R 5 の取組] ・在住者が多い主要国籍からアンバサダーを市が選任する。</p> <p>[アンバサダーの役割] ①市が発信する情報を、独自コミュニティに向けて発信し、広く拡散。 ②多文化協議会へ参加し、生活や情報に関する実態報告及び市や協議会へ助言。 ③市の参集依頼に応じ、アンバサダー同士の情報交換に加え、市の施策に対し助言。</p>
新規	<p>静岡産業大学の「留学生」を生かしたまちづくり</p> <p>[現状・課題] ・市内大学に通う外国人留学生を市や地域における多文化共生施策に生かしていなかった。 ・既存の補助金が廃止（学術交流振興基金残額が R 4 で無し）</p> <p>[R 5 の取組] ・市内大学に通う留学生が日本人と交流する機会を増やし、相互理解を促進する。 ・貢献度に応じた謝礼を支払うことで生活支援の一端を担う。</p> <p>[取組] 予算：謝礼 30 万円（例）日本語教室・初期支援教室・放課後児童クラブの補助など</p>
拡充	<p>小学校等における外国人児童に向けた支援と制度の活用を強化</p> <p>[現状]・就学時に行う外国人生徒初期支援教室（NIJI）の実施 ・日本語習得及び学校生活への適応を手助けするため、日本語指導員、外国人児童生徒支援員、相談員、JSL サポーター等を配置している。</p> <p>[課題]・十分な教育期間・人員が確保されていない。中部小学校のみ。定員 8 人。期間 3 カ月。 ・支援者向けスキルアップ研修の機会が少ない。支援員や制度を生かし切れていない。 ・市教委にコーディネートする専門職員が不在。 ・要支援児童の増加及び多国籍化</p> <p>⇒[取組]・現場を見て聞いて現状分析する R4～。必要な人と予算要望を行う（R5 に向けて）。 ・教員に各種支援員の制度の説明及び周知。制度の活用を促す。専門職員の配置 など</p>
新規	<p>外国人が各種情報を取得できるサイトの一元化</p> <p>[現状・課題] ・外国人にとって市 HP で欲しい情報を得ることは困難。（情報が多すぎる・たどり着かない） ・様々な団体が SNS を通じて発信しているが、バラバラ。集約できてない。</p> <p>[取組] ・市が官民連携で開設する「地域情報サイト」に外国人関係のカテゴリを設ける。 ・市・国際交流協会・外国人情報窓口・JICA・外国人学校・学校・企業・外国人の情報を集約、それぞれが持っているサイトを集約する。リンクを貼る。</p>
拡充	<p>地域における外国人×日本人の「バディ関係」構築</p> <p>・日本語教室を開催する会場がある地域住民（日本人）に支援者として参加を促し、教室以外の場でも日常の相談やイベント等へ誘い合う関係（手と手を取り合う関係）を構築する。</p>

多文化SHIZUカップ「ダバ-シティ・サッカー交流会 磐田市長杯」 (企画書)

[目的]

- ・スポーツを通じて、外国人住民と日本人住民の「心の交流」を促進する。
- ・障害者と健常者が同じフィールドでスポーツする機会を創出し、相互理解(=ダバ-シティ尊重)を促進する。

[概要]

共 催	<p>★磐田市</p> <p>★国際ナショナル多文化カップ実行委員会</p> <p>①任意団体 Shizulatinos ②浜松インドネシア友好協会</p> <p>③在静岡県ベトナム人会 ④常葉大学浜松キャンパスサッカー部 OB 会</p> <p>⑤Grace</p> <p>★磐田国際交流協会</p>
協 力	<p>・ JICA 浜松デスク ・ 株式会社ジュビロ ・ 静岡SSUポニータ</p>
開催日	<p>令和5年3月11日(土) 開催 9:00~15:00 少雨決行</p>
場 所	<p>竜洋スポーツ公園サッカー場 (住所: 磐田市南平松8)</p>
内 容	<p>◆【グラウンドA】 サッカーマッチ 8人制 10チームで対戦 10分ハーフ</p> <p>■参加チーム(予定)</p> <p>①外国人学校チーム「オブジェチーボ(中高生&保護者)」</p> <p>②磐田市日本語教室</p> <p>③FJU(磐田国際交流協会 推薦チーム)</p> <p>④NPO法人スポーツコミュニティー磐田・ポラスター</p> <p>⑤NPO法人「SAC」</p> <p>⑥静岡産業大学(留学生・日本人学生・教員など混合)</p> <p>⑦浜松インドネシア友好協会</p> <p>⑧在静岡県ベトナム人会</p> <p>⑨常葉大学浜松キャンパスサッカー部OB会</p> <p>⑩市役所&官民連携チーム</p> <p>◆【グラウンドB】 住民交流サッカー</p> <p>◎アンプティサッカー体験(協力: ガネーシャ静岡AFC)</p> <p>◎子ども向けサッカー教室 (協力: 常葉大学サッカー部OB会・静岡SSUポニータ 4~6名)</p> <p>◎子ども向けサッカーゲーム ※チアホーザ園児参加予定</p> <p>◎ごちゃまぜ交流サッカーゲーム(来場者による交流サッカー)</p> <p>◆各国のフードコート(10店舗)グラウンド入口付近</p>
参加費	<p>なし</p>
市長表敬	<p>主催メンバー(市・実行委員会・磐田国際交流協会)による市長表敬 3月7日(火)10:30~</p>

ダイバーシティ豊かな 1日となる

多文化SHIZUカップ

「ダイバーシティ サッカ交流会 磐田市長杯」



多国籍料理も楽しめる!!!

参加ベンダー募集中

【申込み・お問合せ】

渡邊カルロス (SHIZULATINOS)

Tel: 080-9722-2709

Email: info@shizulatinos.org

2023年3月11日 (土)

9:00-15:00 (少雨決行)

竜洋スポーツ公園サッカー場 →



プログラム

- ① サッカーマッチ
8人制 10チーム対戦 10分ハーフ
- ② アップティーサッカー体験
協力: ガネーシャ静岡AFC
- ③ こども向けサッカー教室
協力: 常葉大学サッカー部OB会
静岡SSUポニータ
- ④ こども向けサッカーゲーム
- ⑤ ごちゃまぜ交流サッカー
・来場者によるサッカー交流

共催: 多文化SHIZUカップ実行委員会 ・ 磐田市 ・ 磐田国際交流協会
協力: 株式会社ジュビロ・静岡SSUポニータ・JICA浜松デスク

5 市町による合同勉強会について

合同勉強会での、学習内容や勉強会の様子を以下のとおりご紹介します。

1 講師・講義テーマ

- (1) 名古屋出入国在留管理局 赤星 有紀様
「在留資格と外国人受入環境整備等制度の課題について」
- (2) 静岡文化芸術大学 佐伯 康考様
「多文化共生における今後の傾向と課題、各主体の推進施策について」



2 具体的な講義内容

- (1) 「在留資格と外国人受入環境整備等制度の課題について」
 - ・各種在留資格の在留期間や、該当する職業
 - ・在留資格に関する様々な手続きについて
 - ・地方自治体との連携強化について
- (2) 「多文化共生における今後の傾向と課題、各主体の推進施策について」
 - ・外国人労働者と日本人労働者の賃金格差について
 - ・「多文化共生」は“キレイごと”であるか
 - ・各市、国際交流協会、外国人窓口職員、市担当者によるワークショップ
※市、所属の垣根を超えた勉強会及びワークショップは初の試み
多文化共生における現状と課題について情報共有した。



3 勉強会の様子



「笑顔」で日本人と外国人の子供を繋ぐプロジェクトの実施について

市では、国籍・性別・障がいの有無などにとらわれず、誰もが住みやすいまちの実現を目指して様々な取組を行っています。その中のひとつである多文化共生の取組として、この度、民間団体と連携した“笑顔で繋ぐプロジェクト”を豊田東幼稚園と市内の外国人学校「チアホーザ・オブジェチーボ」の両園で実施します。

◇オンライン交流会 日時：令和5年2月15日（水）午前10時15分～午前10時45分（予定）
場所：外国人保育所「チアホーザ」及び豊田東幼稚園

◇笑顔の交換会 期間：令和5年2月15日（水）～2月28日（火）まで
場所：外国人保育所「チアホーザ」及び豊田東幼稚園

記

1 目的

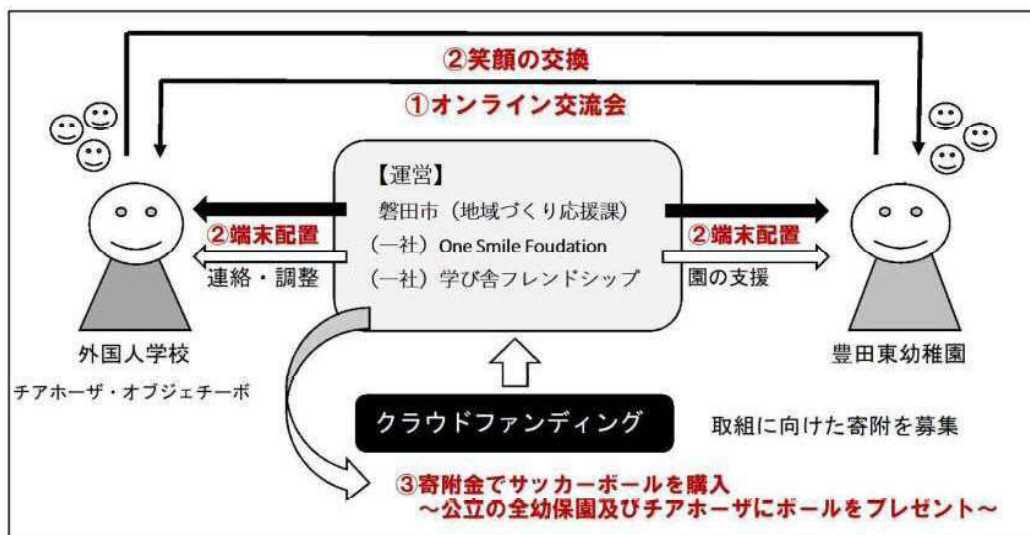
- ・日本人と外国人の子供の「心の交流」により、幼少期から多文化共生や相互理解を促進する。
- ・笑顔の効能を生かし、明るい保育環境を促進する。
- ・市内にある外国人学校の存在を多くの市民に知っていただく。

2 豊田東幼稚園を選定した理由

- ・園児数が同規模であること。
- ・外国人児童が在園していないこと。
- ・外国人学校から最寄りの園であり、連携が取りやすいこと。

3 方法

- ① 最初にオンラインで両園児に向けた交流会を実施します。
- ② AIで笑顔を自動感知及びカウントする機能をもったタブレットを廊下等に設置します。「おはよう」「元気」「また明日ね」と言葉を交わす代わりに笑顔の数を相互に交換します。
- ③ 取組に対しクラウドファンディングで寄附金を募集します。
- ④ 寄附金でサッカーボール等を購入し、市内の全公立園にプレゼントします。



4 実施する園の概要

◇外国人学校「チアホーザ・オブジェチーボ」

区分	内容
正式名称	◇チアホーザ保育所 (0~6 歳児預かり) ◇ブラジル人学校「エスコラ オブジェチーボ デ イワタ」(小中高校生) 1階「チアホーザ」、2階「エスコラ オブジェチーボ デ イワタ」 ※市内に在住するブラジル人の子供が多く在籍しています
所在地	◇磐田市一言 3592 (1997 年 10 月開園)  
園の願い	★私達がいる学校の存在を磐田に住む日本人の皆さんに知ってもらいたい。 ★国籍や言葉が違って同じ市民として日本人の皆さんと友達になりたい。

◇豊田東幼稚園

区分	内容
正式名称	◇磐田市立豊田東幼稚園 (園児数 56 人)
所在地	◇磐田市高見丘 65
園の願い	★チアホーザの皆さんと、オンライン交流会や笑顔の交換で仲良くなりたい。

5 市と連携する民間団体の紹介

以下の 2 団体と連携して本プロジェクトを実施します。

<p>「一般社団法人 One Smile Foundation (ワン スマイル ファンデーション)」</p> <p>固定したスマートフォンなどの I T 端末に A I による笑顔認証機能を搭載し、笑顔を検知する度「1 笑顔=1 円」に換算して寄付が行われる仕組みをつくる。寄附は地域コミュニティや健康促進など社会問題の解決に活用する。各種国連及び国際会議に発表のため招かれている。</p> <p>代表理事 辻早紀、本社 横浜市</p>

<p>「一般社団法人学び舎フレンドシップ」</p> <p>磐田市を中心に、共生社会の実現に向けての教育プロジェクトを地域や学校等で実施している。静岡産業大学やブラジル学校、FETJ-Global (フィリピンの英語教師の会) 等と連携し、多様な文化、言語をもつ外国にルーツを持つ人々と日本人が出会い、楽しく学び合える場を提供している。</p> <p>代表理事 木村泰子 (元学校長)、事務局所在 磐田市福田、 構成員 元教職員・公認心理師・支援員など</p>

[問合せ先]

【実施主体】

- ◆一般社団法人 One Smile Foundation 代表理事 辻 早紀 携帯：080-1110-4893
- ◆一般社団法人学び舎フレンドシップ 代表理事 木村泰子 携帯：090-8868-1952

【連携協力・全体調整】

◇磐田市地域づくり応援課 課長補佐 伊藤豪紀 電話：37-4870 携帯：090-8488-3312

外国人アンバサダーの選任について

1 目的

(1) ダイレクトな情報伝達と意見収取の体制構築

現在、市がアプローチ出来ていない外国人独自のコミュニティに対する情報発信および多文化共生施策に対する意見収集体制を強化するため。

(2) 外国人市民の活躍の場作り

磐田市では外国人市民の増加、多国籍化が進んでおり、様々な国籍、在留資格で磐田に暮らし、活躍している方がいる。

このような方々がロールモデルとして活躍する場を作り、若い外国人児童生徒の目標となる環境をつくる。

(3) 多文化交流イベントへの外国人市民へのPR強化

アンバサダーが交流イベントに参加することで、外国人市民が興味を持ちやすい、参加しやすい環境をつくる。

また、防災訓練など地域イベントのPRを強化する。

2 概要

(1) 選任

令和5年4月～7月に、人口の多い主要国籍（ブラジル、フィリピン、ベトナム、タイ、インドネシア、中国など）から、各国籍1名、合計5名程度を選任する想定。

(2) 具体的な活動イメージ

- ①市が発信する情報を、独自コミュニティに向けて広く拡散
- ②多文化共生社会推進協議会へ参加し、生活実態の報告や施策への助言
- ③市の参集依頼に応じ、アンバサダー同士の情報交換を行う。
- ④積極的に市のイベントに参加し、外国人市民の参加を呼び掛ける。

(3) 待遇

- ・1人、年間2万円の報酬を用意
仕事量に関わらず、一律2万円とする予定

3 協議事項

外国人アンバサダーの選任方法と、役割について

- ・募集方法について。（公募形式、推薦形式など）
どのような年齢層、国籍、在留資格から選出するか。
- ・想定している役割の他に、アンバサダーを活用してしたいこと。

子育て・教育に関わる機関の連携課題について

以下の1～3について、市で把握している内容を記載しています。

皆様の視点から、改めてご意見願います。

1 現状

- ・各施設、団体間の情報共有の場が無い。
- ・市、学校、国際交流協会がそれぞれで情報発信しており、情報共有できていない。
- ・外国籍児童生徒の多国籍化、居住地の広域化が進んでいる。
※文部科学省が令和3年に実施した、「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査」の結果から、該当する外国籍の児童生徒数は県内合計3,783人で、全国で3番目に多い。(磐田市は令和4年3月末時点で641人、約17%を占める)
- ・多文化交流センターで、東部小や神明中など近隣の学校外(竜洋、福田地域)からの相談が増えており、受入人数の限界を迎えている。
- ・幼稚園、保育園でJSLを求める声がある。
プレスクールを含めた幼児時代に対する支援で、関係機関の連携が取れていない。
- ・保護者同士が繋がれる場、イベントが無い。
- ・外国籍の子どもが“短期滞在”や“未成年で保護者がいない”場合、夜間中学で受入れられない。N I J Iの受入定員は8人で、待機児童が出ている状況

2 課題

- ・各機関の情報共有の場作り、また児童生徒に対する支援情報の一元化が必要。
- ・多国籍化、広域化に対する支援体制の見直しが必要。
- ・N I J Iや多文化交流センター、日本語教室などの受入機関が飽和状態にある。
- ・プレスクールを含めた幼児時代の支援体制の見直しが必要。
- ・保護者同士の繋がり場の場作り、情報提供の場作りが必要。

3 対策

- ・未定 (R5に向けて今後検討)